

伊藤恵が語る、シューマン全曲録音への思い

伊藤恵 インタビュー

構成・文：松本學（音楽ライター）



伊藤恵。日本人音楽家でシューマンと言えば、即座に連想されるのがこのピアニストである。そのきっかけのひとつとなった、13枚にわたるCDシリーズ「シューマニアーナ」が20年の長きを経て遂に完結した。演奏の質はもちろん、収録された作品数としても録音史に残る大きな業績を果たした彼女にお話を伺った。

—「シューマニアーナ」シリーズの完成、おめでとうございます。20年を経ての完結ということで達成感もひとしおだと思えます。まずはご感想をお聞かせ下さい。

やっぱり嬉しい、ホントに嬉しいです。よく続けられたなとも思いますし、続けさせて下さったすべての人に感謝しています。ハリウッドのアカデミー賞の時に、かわった人みんなの名前を挙げて謝辞を述べますよね。もうまったくその気持ちがよくわかります。やっぱり支えて下さった方たちがいらっしやなかったら絶対に出来なかったことですね。《クライスレリアーナ》から始めて、本当は最初は10年くらいで出来るんじゃないかなと思っていたんです。けれども、やればやるほどシューマンの作品に対する責任というのが、自分の中で増していき、結局20年もかかってしまったというのが正直なところですね。

—シューマンの魅力とは？

自分の大切な人に贈る私的なメッセージというところ。それから楽譜や音楽に隠された謎解きの魅力です。

—シューマニアーナ・シリーズのキー・ポイントは何でしょう？

色々ありますが、何よりも、ピアニストと調律師と録音担当からなるチームが変わらなかったということがよかったです。だからこれは私の歴史だけじゃなくて、このチームの歴史とも言えますね。

—来る11月には完成記念リサイタルが行われます。神戸と東京でそれぞれ2つプログラムがありますね。

神戸の方は、シューマンが一区切りとなり、次のシューベルト・シリーズにつながるという意味を込めました。「終わりは始まり」ということです。それに対して、東京では

オール・シューマンにしました。《謝肉祭》と《ダヴィッド同盟舞曲集》を選んだのは、彼のいくつかある大切なキーワードの中で、志を共にする仲間たちという思想を表す「ダヴィッド同盟」にちなんでいます。シューマン自身が、前者はそのダヴィッド同盟員が仮面を着けた顔、後者は仮面下の素顔、と語っているのです。ちょっと冒険ではあるのですが一晩で仮面と素顔を並べてみました。《花の曲》と《トッカータ》は今回リリースされる最後のシューマン・アルバムの中からです。

—ご自分の演奏の理想とは？

内面的でとても深く、そして音楽的で、音でしか表現できないような……人の心の奥底に届くような音を出せるような演奏家になりたい。そして人が聴いて幸福になるような音楽をやりたいと、ずっと思っています。作曲家の純粋な内面の世界を飽くまでも、温かい気持ちで、それからひとつひとつの音に心をこめてただ淡々と弾く、ということを目指しています。

—では、伊藤恵という音楽家は理想への歩みの過程で今どの位置にいるのでしょうか？

スタート地点かも知れません。自分の望んでいた音を出せる瞬間というのは、確かに以前よりは増えたと思うんですね。でもわかったと思った瞬間に、それとは全然違う、私が想像だにしなかった次の世界というのが見えてきた。その世界を知るには、さらなる勉強が必要だということに気付いたところです。

—シリーズ終了にあたってひとこと。

以前、雑誌の取材でシューマンゆかりの町を巡る旅をしました。また彼の地に赴き、20年の歳月について偉大な作曲家へ報告をしたいと考えています。

“疾駆する” “飛翔する” “遊技する” ……。

シューマン・ピアノ曲全曲録音完成記念コンサート 伊藤恵 ピアノ・リサイタル

KEI ITOH

11/7(水) 19:00 浜離宮朝日ホール

シューマン：花の曲 op. 19 / 謝肉祭 op. 9 / ダヴィッド同盟舞曲集 op. 6 / トッカータ 八長調 op. 7 **全指定席** 一般¥4,000 学生券¥2,000

1987年からシューマンの作品を収めたアルバム「シューマニアーナ」の録音に取り組んでいた伊藤恵。20年の歳月をかけ、いよいよ、2007年秋、「シューマニアーナXIII」をもって、全曲録音が完成します。これを記念して、伊藤恵が選りすぐりのシューマン作品を披露します。

20年の歳月を経て今秋完成



シューマニアーナ 1987→2007 伊藤恵

シューマニアーナ 最終2タイトル 12・13

伊藤恵 ピアノ

収録曲

- トッカータ Op.7
- 花の曲 Op.19
- 夜曲 Op.23
- 3つのロマンス Op.28
- 4つのフーガ Op.72
- 4つの行進曲 Op.76
- アルバムプレッサー Op.124
- フグータ形式の7つのピアノ小品 Op.126
- スケルツォ (ソナタ 第3番 初稿第2楽章)
- ベートーヴェンの主題による自由な変奏形式の練習曲

2007
10.21
ON SALE

Schumanniana
Kei Itoh

各定価 ¥2,800 (税抜価格 ¥2,667)
SACD/ハイブリッド盤
録音：2007年1月・4月
神戸新聞松方ホール

1987年の収録開始より20年。伊藤恵によるシューマンのソロ・ピアノ作品全曲録音シリーズ「シューマニアーナ」がまもなく完成します。

1983年第32回ミュンヘン国際音楽コンクールで優勝し、本格的な活動を開始してから20余年。伊藤はレパートリーの焦点を独逸音楽におき、その機軸は常にシューマンでした。1999年より8年連続開催した「春をはこぶコンサート」での名演は記憶に新しいところです。

ロマン派を代表する作曲家が短い生涯を終えてから151年。引き裂かれた精神が遺した、それ故現代にも問題を提起し続ける作品群に、伊藤恵の演奏は新たな刻印を残します。

世界的にも数例のみ数える全曲録音 — 壮大なエピソードはまもなく開幕します。



シューマニアーナ 1-11

各定価 ¥2,000 (税抜価格 ¥1,905)

一挙同時
再発売